

松永伍一



詩人、エッセイスト。1930年福岡県に生まれる。中学教師を経て、1957年以降は文筆生活。文学、民俗、美術、宗教など広範囲にわたる論評で知られ、子守唄の研究者、古代ガラスの蒐集家としても知られる。農民詩、キリスト教の研究者としても著名。

いかなる文学組織にも参加せず。趣味の絵画で20数回を超える個展を開く（NHK教育テレビの日曜美術館での解説者としても数回出演し解説）。

テレビ・ラジオ出演も多く、ドキュメンタリー番組の制作にも関わってきた。

『日本農民詩史』全5巻の大作により毎日出版文化賞特別賞を受ける。著書には「「日本の子守唄」「底辺の美学」「一揆論」「荘厳なる詩祭」「絶望の天使たち」「ムッソリーニの脳」「天正の虹」「散歩学のすすめ」「フィレンツェからの手紙」「金の人生 銀の人生」「縁ありて人生たのし」「隨筆玉手箱」「人は言葉に癒され、言葉に励まされる」「老いの品格」「快老のスタイル」「感動の瞬間」「モンマルトルの枯葉」等、他、詩画集「風の神話」（画・安本亮祐）、「夢の鳥」（画・脇田和）、「火の庭」（画・山中現）など170冊以上。

2008年3月心不全のため死去（享年78歳）。